

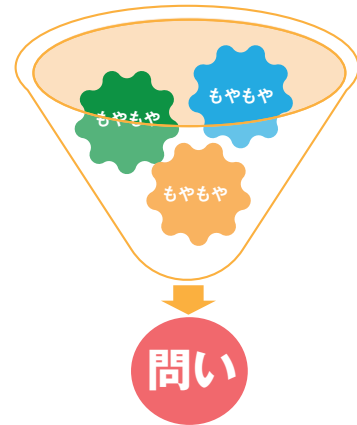
授業レポート

『もやも屋』× 主体的・対話的で深い学び

札幌市立幌北小学校 教諭 安井政樹

この授業で大切にしたこと

この授業で大切にすることは、子どもたちの「もやもや」をみんなの「問い」として整理し、追究することです。自我関与をさせながら、教材について考えていき、友達と語り合う中で、自分も持っている価値観と友達の価値観が触れ合い、自分が大切にしたいことを改めて考える。そういう学習を目指して授業をデザインしました。



授業の流れとポイント

①番組視聴

見やすいところで視聴でき、番組に集中できる環境が、大切です。道徳で大切と言われる「対話」の一つに、教材との対話があります。教材のストーリーに入り込み、考えながら視聴することが、自ら「問い」をつくることにつながるのです。



②感想交流→ノートに記録

コンシェルジュ（土田先生）もおっしゃっていましたが、子ども自身にとっても、記録しておくことは大切です。繰り返していくことで、ノートに整理する時間も短縮できるようになってきます。

繰り返すことで、素直な気持ちを文字にすることがだんだんできるようになるだってブー

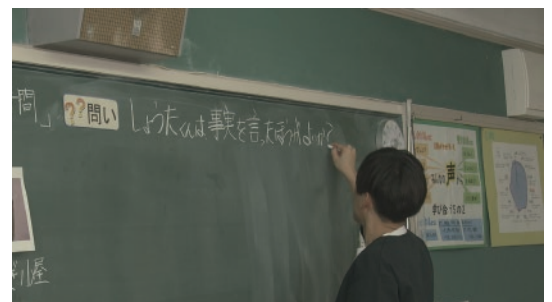


③もやもやしたことの交流→問いづくり

「今日のもやもやを教えて」と投げかけ、子どもたちが考えたことをたくさん言えるようにします。

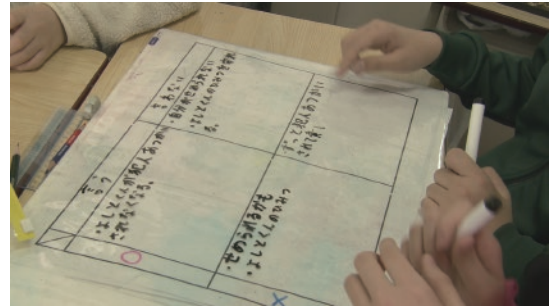
「たしかにそれも悩むよね」と共感することもあれば、「それはさ、描かれていないから、話し合っても解決できないかもね。」と「たられれば（もし~だったら…、もし~すれば…）」に陥りそうな問いは、先に毅然と答えてしまうこともあります。

そうして、最終的に「今日の問いはどうしようか？」とクラス全体で解決する問いを決定して追究につなげます。



④グループでの追究 (思考ツールの活用)

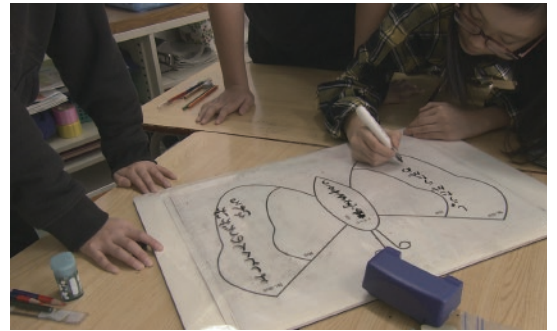
「問いについて考えてみましょう。」とグループごとに対話を通して解決することを促します。この場面では、話し合うためのツールとして「思考ツール」を活用しています。それぞれのグループで、どの思考ツールを選択するのか話し合っ



て活用するようにしています。

今回の学習では、「田の字チャート」や「バタフライチャート」を活用しているグループがありました。

教師が使うチャートを指定して、その良さを感じさせることからスタートして、最終的には、子どもたちが自分たちで選択できるように学び方自体を学ばせていきたいですね。

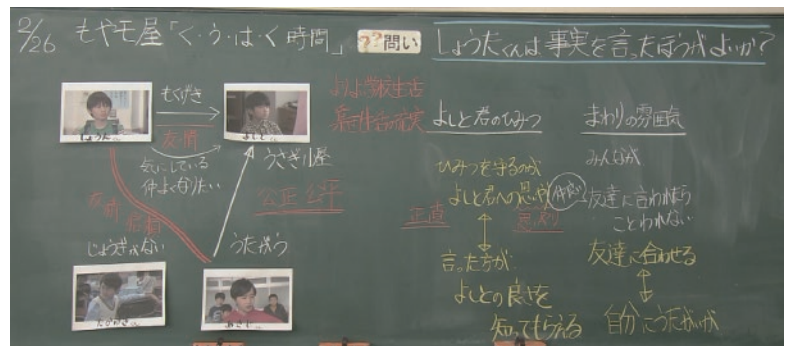


⑤全体での追究 (教師は、黒板に議論を整理)

問いについての考えを発表してもらい、黒板に整理していきます。友達の発言を受けて、さらに、考えを発表していくことで、どんどん追求していきます。

途中で、「この意見について、みんなはどう？」というように、全体に問い返すことが、みんなで考えることにつながります。ただの意見発表会にならないように、出てきた意見を紡いで、整理していくことが大切です。つまり、点を点でおわらせるのではなく、他の児童の考えを関連付けていくことで点を線にしていくのです。関連性に気づいていない児童も、「あれ？もしかして僕の意見も…」と結びつきに気付くと、さらに主体的な発言が生まれます。

友達の考えをよく聞くことがまず大事なんだって
ブー。グループで話し合ったことが根拠になっているから、みんな話しやすいんだブー。



⑥本時の議論を「道徳的価値」として位置づける (関連価値の整理)

「今日の黒板に、道徳の言葉を位置付けていきましょう。」と問いを投げかけます。私の教室には、「内容項目のキーワード」を掲示してありますが、掲示していない場合は、教科書の裏表紙などにある一覧を活用するとよいでしょう。

黒板で、赤字で書いたものが、関連すると子どもたちが考えた道徳的価値です。これを基に、本時のような場面で自分は何を大切にしたいのか、拳手をさせながら、自分で大切にしたい生き方を考えられるようにしました。例えば「友情・信頼を大切にしたいなという人」「公平・公正を大切にしたいなという人」「集団生活の向上、クラス雰囲気大切にしたいなという人」というようにです。いろいろな価値観に触れたうえで、もう一度自分が大切にしたいことを考えることができるように工夫しています。

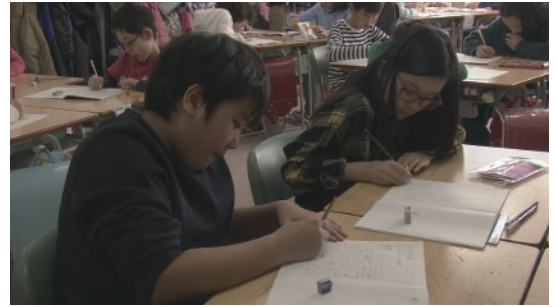
⑦ノートに自分の最終的な考えを整理し、自己を見つめる

何を大切にしていきたいか、そして、そう考えるようになったのはどうしてか。本時の学びの記録を整理します。単に「振り返り」や「感想」を書くように指示すると、学びの過程が記録されない場合が多く見られます。

- ・自分の今までとこれから
- ・今日の学習での「自分の考え」の変化
- ・友達の考えから学んだこと

など、記録することを明確にすると子どもたちも整理しやすくなるでしょう。私のクラスでは、自分コーナーと友達コーナーと分けてノートに学びを整理するようにしています。

これも、繰り返すことで、だんだんと自分の学びを整理するために必要な時間を減らしていくことができます。



単に感想や振り返りを書くように言われるよりも、書くことを具体的に言われるとノートに整理しやすいんだってブー。

⑧ペア交流で多様な価値観に触れる

自分の学びを整理した子から、多様な価値観にさらに触れることができるように立ち歩きペア交流を促しています。時間差を有効活用できるという意味もありますね。

特に大切なのは、ノートを読むのではなく、友達に語るということです。ノートを読んでいると、何回も同じことを言うことを繰り返すだけに終わってしまいますが、ノートに整理したことを基に語るようにすると、友達の意見を聴いて、考えが少しずつ変化し、自然と語る内容もブラッシュアップされていくのです。これこそが、多様な価値観に触れていく中で、自分の価値観が変化していくこと、つまり、学びが深まっていくことにつながるのです。



『もやも屋』をおすすめします！

『もやも屋』は、すべての回が個性的で、いろいろな物語になっています。そのため、今回活用した回以外でも回によって工夫すると、もっと授業を充実させることができると思います。

例えば、とても似ている女の子が出てくる回では、ひょっとすると、「え？どっち??」と見分けがつかなくなってしまう恐れがあります。ですから、視聴前に「登場人物の顔と名前」を確認しておくという工夫をすることができます。

NHK for School から指導例や静止画をダウンロードして板書に活用することができるので、活用するといいですよ。

配信リスト

2019年度 その他の放送



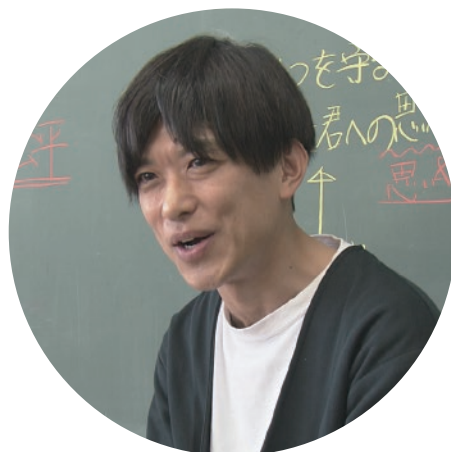
道徳科の授業で大切にしていること

価値を押し付けない

道徳科では、「価値を押し付けない」ことが大切です。

「教師自身も1つの正解は分からない、子どもともに考え議論し、学ぶ存在である」ということを大切にしています。そもそも、道徳的な問いは、哲学と同じで大人である教師にとっても、そうそう答えが出るものではありません。

逆説的に言えば、簡単に答えが出る問いは、道徳の時間に考えるべき問いではないのかもしれませんが。例えば、「親切にした方がよいかどうか」という問いは、一般的には「その方がよい」とすぐになりますよね。これは、45分間で追究するべき問いではないのです。その一方で、同じ親切というテーマでも「なぜ、親切にすることはよいのか。」「親切は誰のためにすることなのか。」というような問いについては、色々な答えが予想されます。こういった問いを追究すると、教師が価値を押し付けることはできず、むしろ、子どもと共に悩み、どんな生き方をしていきたいのか、共に考える学習になるのだと思います。



建前を言えるだけで終わらない

そして、道徳科で大切なのは、「～すべき。」「～が大事。」という建前を言えることではありません。いわゆる「建前」は、道徳的価値と関連しています。その価値について知っていることを意味するという点で言えることも必要です。例えば、「諦めずに努力することが大切だ」というように、実際にできるかどうかは別として、このことを知っていること自体に意味があります。(価値を本当に理解しているかは、別として。) 建前を知っているからこそ、実際はなかなかできないよなあというような自分の弱さを本音として見つめられるのです。自己を見つめることがやはり大切です。

よりよい生き方を考える

私が大切にしていることは、子どもたちが「よりよい自らの生き方を考える」ということです。「できないよ」「難しい」という弱さを共有するだけでは、傷のなめ合いになり、よりよい生き方を思い描くことはできません。だからと言って、「これ!」という一つの正解はない。これは道徳科の難しさであると同時に、面白さでもあります。「あー、それもあるか。」という発見の連続です。

変化の激しい時代において、私たちは経験もしたことが無いようなことに直面します。今回のコロナウイルスの対応についてもそうですよね。何が正解かはわからない。でも、何かを大切にしたいというそれぞれの思いが、一人一人のその後の行動、生き方につながるのです。

「正解がない問い」が増えることが予想される時代だからこそ、「何が正解なのか」ではなく、「自分は何を大事にしてどう生きていきたいのか」を道徳科の学びを積み重ねる中で考えられるようになってほしいですね。今回の「まなブー！ コンシェルジュ」で、多くのクラスの道徳の学習が充実することを願っています。

10分の番組だけでは分からないところまで、教えてくれて、安井先生
ガンキューだブー。

